

ルクセンブルク経済・金融情勢（2020年12月とりまとめ）

2020年12月のルクセンブルク経済・金融情勢について、各種報道をとりまとめたところ、次のとおり。

1 統計関連

- 2020年12月のインフレ率は年率0.56%（前月0.42%）（1月8日付統計局プレスリリース）
- 2020年11月の失業率は6.3%（前月6.3%、前年同月5.4%）、2020年12月の失業率は6.4%（前年同月5.4%）（1月20日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- STATECによれば、当国居住者はパンデミックにより、インターネットの活動がより活発になっている。ロックダウン前と比較して、38%の人が多くの写真や動画をソーシャルメディアに投稿し、60%の人がより多くの必需品をオンラインで購入し、51%の人がより多くテイクアウトの食事を注文した。（12月9日付当地報道機関RTL）
- STATECは、パンデミック下における死亡率の推移へ関心の高まりを受けて、異例の年内中間報告を発表した。2020年1月から10月までの死亡率について、例年に比べて有意に高くなっておらず、死亡者の平均年齢も女性が80歳、男性が74歳と例年とほぼ同じである。当国における新型コロナウイルスによる死亡者の多くが11月と12月に記録されていることから、2020年全体の死亡率は例年より高くなると予想されている。（12月23日付当地報道機関RTL）
- ルクセンブルク医学生協会（ALEM）の調査によると、当国外に留学している医学生の内、3分の1が当国で就職活動を行っていないことが明らかになった。住人1万人当たりの医師数が2.9人となっているなど、長年にわたり、当国での医療従事者数は不足している。高等教育情報資料センター(Cedies)によれば、約1000人の当国人が医学を学んでいるが、近隣諸国の労働条件の改善や当国に大学付属病院がないこと、ルクセンブルク大学における医学士号を取るための教育課程の内少なくとも1年間は海外で修了しなくてはならないことが理由として挙げられている。（12月28日付当地報道機関RTL）
- ユーロスタットによれば、当国の住宅価格は昨年1年間で、EU内で一番著しく上昇したという。2019年第3四半期と2020年1年間を比較すると、当国の住宅価格は13.6%上昇した。EU全体では、平均5.2%の上昇となった。（1月14日付当地報道機関RTL）
- ユーロスタットによれば、2010年と比較して、2020年第3四半期の当国の住宅価格は、90.5%上昇したが、賃貸価格は14%の上昇にとどまった。（1月19日付当地報道機関RTL）

2 政府等関連

- 当国とフランスの間における新型コロナウイルス蔓延との闘いに関連して、両国間の課税に係る協定が2021年3月31日まで延長された。これによって、在宅勤務を行った日数が、当国の課税対象とすることができる越境労働者の上限日数である29日の算定に含まれないことが規定された。（12月7日付財務省プレスリリース）（往電第769号）
- 12月13日、アンリ大公、バウシュ副首相兼交通・公共事業大臣、ポルファー（Polfer）

ルクセンブルク市長ら関係者が出席し、ルクセンブルク市中心部の4つの新しいトラムの駅のオープンイベントが実施された。(12月14日付政府プレスリリース)

3 企業関連

●スタートアップ企業モレキュラー・プラズマ・グループ(MPG)は、新型コロナウイルスに対抗するため、プラズマ技術によってマスクを自己消毒できる独自技術を開発した。12月16日、ファイヨ経済大臣は、同社との間で、メイド・イン・ルクセンブルクのマスクの開発・生産のための「Virucidal」プロジェクトへの共同出資に関する合意書に署名した。(12月16日付政府プレスリリース及び12月17日付当地報道機関RTL)

※当国政府機関の公表資料や各種報道などの公開情報を取りまとめたもの。